



トンボエダシャク

ふる里散歩

天覧山周辺の自然に親しめるふる里散歩へ、どうぞふるってご参加ください。

9/9
日

「秋の虫を探そう」の巻

天覧山周辺にはたくさんの昆虫が生息中。どんな虫と出えるか楽しみですね!

集合/能仁寺山門前 午前9時半(申し込み不要)
持ち物/飲み物・お弁当・山道を歩ける服装
参加費/300円(小学生以下100円)★雨天中止

10/21
日

「里山バザール」

「ほとけどじょうの里」で初めての企画「里山バザール」を開催します。秋の一日、石窯の周りで開く“森の市”を楽しみませんか! てんたの会でも石窯を使ったパンやピザを出店します。ぜひぶらりと「ほとけどじょうの里」を訪ねてみてください! 現在、出店者募集中です!

時間/午前11時~午後3時
会場/東谷津トラスト地「ほとけどじょうの里」
アトム像のある公園を通り、天覧山登り口で右手に折れて直進100m。
連絡先/詳細や出店希望の方は 042-977-1890(早瀬)までご連絡ください。
★雨天の場合については、現在検討中。

11/11
日

「晩秋の山歩き」の巻

ゆっくりと秋深まる山道を楽しみませんか。
集合/能仁寺山門前 午前9時半(申し込み不要)
持ち物/お弁当・山道を歩ける服装
参加費/300円(小学生以下100円)★雨天中止

【*を除く各回共通 共催/はんのう景観トラスト、(財)埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部]

オオトラフコガネ



11/18
日

天覧山谷津の里づくりプロジェクト 「里山復活祭」昼食付き

天覧山下の“ほとるの里”で谷津田の保全作業を行います。谷津田で出来たごはんを昼食!

集合/市民会館北側中央公園トイレ付近 午前9時
要申込/先着30名 TEL042-973-2125 はんのう市民環境会議事務局(市役所環境緑水課)

持ち物/軍手・タオル・飲み物
参加費/無料
*主催: はんのう市民環境会議 協力: てんたの会、環境会議

12/9
日

「里山のリース作りエコツアー」

大好評企画「里山のリース作り」里山の恵みを分けてもらって、世界にたった一つのリースを作ります。午前中は山歩き、昼食後リースを作りますが、雨天の場合は午前中よりリース作りとなります。

集合/飯能市郷土館ロビー 午前9時半
要申込/先着15名/てんたの会(042-974-1691 浅野)
持ち物/飲み物・お弁当・山道を歩ける服装
参加費/1000円(小学生以下500円)

1/1
日

「初日に祈る山歩き」の巻

自然の持つ力の底知れなさを痛感する近年です。新しい年の平安を願い山を歩きましょう。
集合/能仁寺山門前 午前6時15分(申し込み不要)
持ち物/飲み物・山道を歩ける服装
参加費/無料 ★雨天中止



NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

No. 63
2012.8.20

やませみ

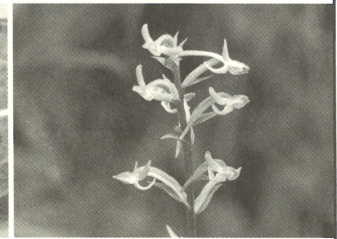
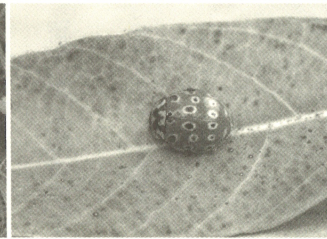
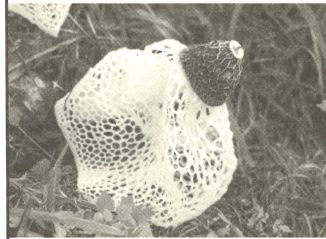


高から低へ
密から疎へ
ふたたび
廻り廻る
人ができない
自然の仕業

特集

自然への思いやりある里山保全へ

- てんたの自然「ミドリシジミ増殖中?」
- 自然と街と人を繋ぐまちづくり
- 地域に根ざした市民による発電事業
- 草遊び「草で作るバッタ」



(上) オニヤンマ (下段左から) キノガサダケ ウモンテントウ オオバノトンボソウ

やませみ

63

発行日/2012年8月20日
編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)
埼玉県飯能市柳町18-17
●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「ロビンングドフェロー」「丹三郎」にあります。
●「やませみ」へのご意見をお寄せください。投稿もお待ちしています。
URL=<http://www.tenranzan.com/>
E-mail=tenta@tenranzan.com

デザイン・イラスト 石岡真由海

会員募集中!!

1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。
*年会費 ●正会員……普通会員 2,000円
特別会員10,000円
●賛助会員……1口10,000円

*会費・カンパ送り先
郵便振替口座「NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会」00580-9-16342

天覧山・多峯主山の自然を守る会HP

<http://www.tenranzan.com/>

当会のホームページへどうぞおいでください! <http://www.tenranzan.com/>



てんたの自然

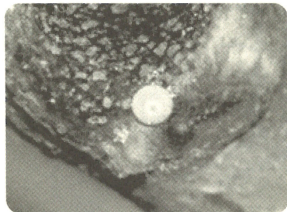
ミドリシジミ 増殖中?

大石 章 (会員)

2000年の自然環境調査で、天覧山で県の蝶・ミドリシジミの生息がわずかに確認されたのだが、その後成虫は確認されなかった。これは食樹であるハンノキの数が少ないこと

が原因と思われ、3年前に県の彩の国みどりの基金を活用して、ハンノキを植えてミドリシジミを増殖することになった。

ハンノキは順調に成長して2m以上になり、この7月、ミドリシジミの産卵が初めて確認された。卵はこのまま冬を越し、ふ化するのは来年の春。幼虫は、葉をつづつて隠れながら葉を食べ、やがて木の下に降りて蛹になる。



中央の白い玉が卵

このため、今後は木の下に枯れ葉を集めて、保護柵を設置する必要がある。来年の6月下旬には、羽化したメタリックグリーンのおスが見られることを期待している。



飯能織物協同組合



自然と街と人を繋ぐまちづくり

NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会 代表 浅野 正敏

天覧山一帯の緑地環境は、駅から徒歩20分ほどで辿り着ける重要な観光資源となっています。これに加え魅力的な商店街があれば、訪れるハイカー達も街に立ち寄ることとなりましょう。街中に多く残る路地や古い町並みを、地域の特産である木材(西川材)を使って修景してあげれば、まち歩きも楽しくなります。これまで全国各地で行われてきた、たくさん人を呼ぶ観光産業(マストツーリズム)ではなく、現在飯能市が取組んでいるエコツーリズムの考え方(自然環境や地域文化を大切にしながら地域と関わりもつことのできる観光のあり方)が、持続可能な生き活きとしたまちを形成していくものと強く思っています。

天覧山周辺の丘陵地を大規模住宅分譲地として開発するという計画があった1990年代後半、林業地の荒廃と商店街の衰退という状況が、飯能のみならず全国的な社会問題となりました。環境保全だけ訴えたの



趣のある路地の板塀

では解決に至らないと考えた私は、「自然と街と人を繋ぐ」というテーマで、その後まちづくり活動を展開して参りました。そうした中、産官学民連携による中心市街地活性化基本計画が一昨年にまとまり、これに基づき推進事業が今年4月からスタートしました。市民主体で考え、形にして行くというこれまでになかった手法がとられています。具体的には、飯能駅周辺に予定している多機能型観光案内所をどのようにするか、ワー

クシヨップによる検討が始まっています。また、古民家の活用、路地の西川材による板塀修景など、街中の魅力アップづくりも盛り込まれています。これらが実現すれば、天覧山を代表とした周辺里山の緑地保全と、名栗川(入間川)の清流保全とで街・緑・水の三拍子が揃います。飯能らしい独自のまちの姿は、市民誰もが誇りと思い大切に受け継がれていくことと思います。



自然への 思いやりある 里山保全へ



●てんたの会の行なった、2000年の自然環境調査から10年以上の時が流れました。当時の天多周辺は、手入れの行き届かなくなった森林が放置され、多くの谷津筋に風倒木が折り重なり、人が立ち入ることも容易ではない状況があちこちで見られました。そのような環境に、多くの貴重な野生動植物が守られ、ひっそりと生息場所を確保していたのです。その後、天多を取り巻く事情は、自然保護団体と開発者の対立という形から、企業、行政、



放置された間伐材

市民がともに里山の自然を、活用しながら残す方向で、天多の将来像を思い描けるようにまで、「協働」という形が整って来ています。

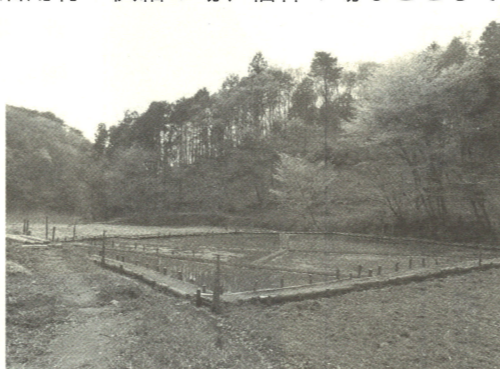
西武鉄道は、「飯能・西武の森」として、自然環境を守る森づくりを進めています。行政や地域住民も参加して、荒れた植林地の景観間伐やハイキング道の整備も行なわれました。てんたの会も参加する「はんのう市民環境会議」は里山の再生を目指し、ため池や田圃を再生しました。この他にも、外来のオオバクサを駆除する人、山道を整備する人、花を植える人、トンボの繁殖を目的に池を作る人... などなど多くの人がそれぞれの考えのもと、この山と関わりを持ち始めました。この結果ホタルやヤマユリなども増え、景観的にも里山の再生が進みつつあります。

しかし多くの方が山と関わりを持ち始めた今、自然生態系保護の観点からすると、いくつか気になる点があります。実際に行われた間伐作業の結果をみると、間伐木がそのまま放置されていたり、保護の

話がでていた照葉樹林が切られた場所もあります。またトンボの為に作られた池には、外来の水草や魚が入れられています。ハイキング道の脇には園芸植物が植えられたり、人の立ち入りのためか、新たな外来植物が入り込んだ場所もあります。

深刻な例としては、2000年の調査の際発見した、埼玉県絶滅危惧種のラン科植物の群生地では、その後の間伐で間伐木が谷を埋め、残念ながら現在そのランは確認されていません。また同じくその際の調査で発見された、県絶滅危惧種の南方系シダ（北限記録）は、やはり間伐の影響で谷が乾燥したためか、今は瀕死の状態となっています。

古来、里山は人の手が入ることで豊かな生態系が形作られ、絶妙な自然のバランスとサイクルが保たれてきました。里山の自然の恵は人々の生活と密接につながり、食料の生産の場、薪炭材の調達、生活用材の供給の場、信仰の場などとして



再生された田圃と明るくなった林（奥）



増えたヤマユリ

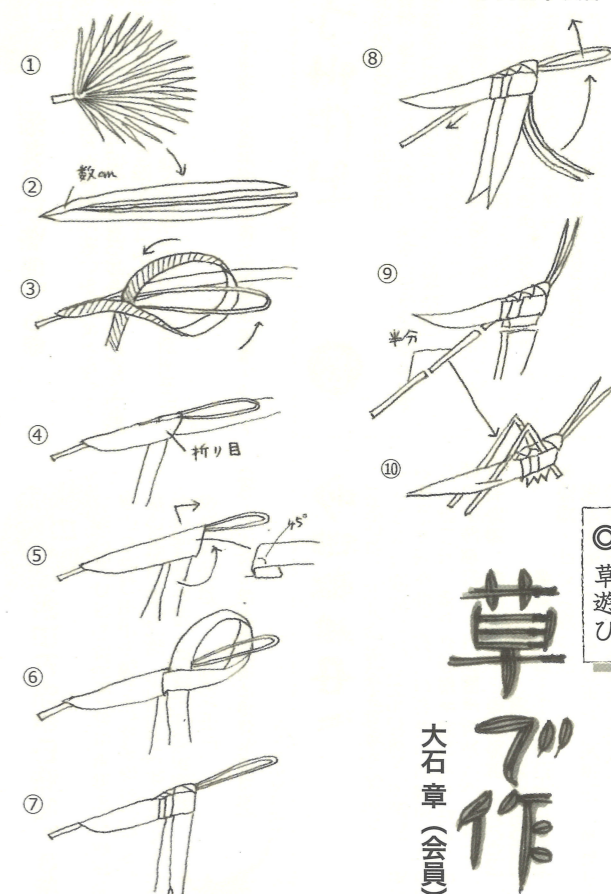
活用・保全されてきました。しかしこの古くからに保たれてきた自然の均衡は、人々の生活の大きな変化に伴い徐々に崩れてきてしまいました。

そして今、この時代に沿った里山の在り方、これからの人々と里山との関わり方を考える時、何よりも忘れてならないのは自然生態系保護の視点ではないでしょうか…。その為には、今後関係者間でさらに十分な話し合いを継続的に持って、里山保全の為に計画づくりを重ねていくことが必要であり、「積極的に活用する場所」「一切手をつけない場所」「定期的に適切な管理作業を行う場所」などの利用区分（ゾーニング）を定めていくことが有効だと考えます。言うは易く行うは難いですが、もしそれができれば、その計画に沿って活動を進めていく中で、さらに自然への思いやりのある里山の保全が実現できると考えます。

黒住浩次（会員）



イラスト/大石 章



◎草遊び

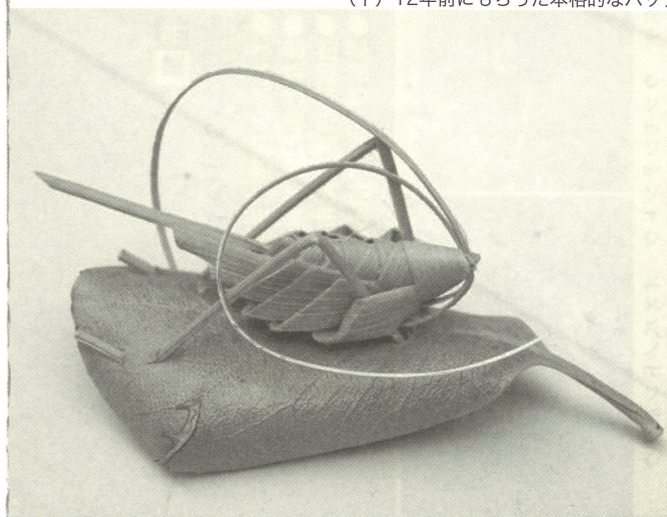
草で作るバツタ

大石章（会員）

12年前「ふる里散歩」に参加した際、参加者が作った草のバツタに驚いた。次にそのバツタに出会ったのは、数年後の本屋、佐藤邦昭著「作ろう草玩具」築地書館。この本を参考にした、手抜きバツタの作り方を紹介します。

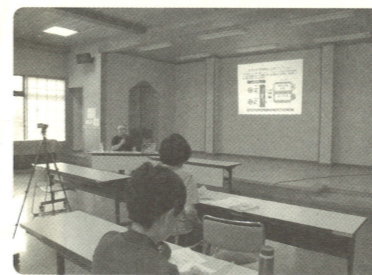
- ①シュロ（葉が厚い唐ジュロ）を用意。
- ②先端から数cmまで、真ん中の軸を切り離す。
- ③～⑦軸を折り曲げて左右の葉で巻き込み折り、2巡目からは一旦逆に折り曲げて折り込む。最低3回折り込む。
- ⑧葉を細く切り裂いて、軸の中を通し、軸を引いて触角を固定。
- ⑨軸を2本切り取り折り曲げ、胸と羽（切り込み）に差し込んで完成。

（下）12年前にももらった本格的なバツタ



地域に根ざした 市民による発電事業

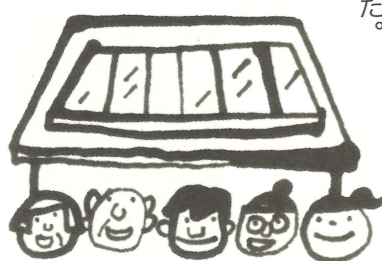
長谷川行雄（会員）



長野県飯田市で市民共同発電所の事業を行っているおひさま進歩エネルギー（株）代表取締役の原亮宏さんの講演会（主催：日高くるくるねっと）と市民共同発電所プロジェクト）に参加してきました。

おひさま進歩エネルギーでは市民から出資を募り、個人宅や公共施設にソーラーパネルを設置して電力を供給する事業をしています。これまでに5回のファンド募集を行い、のべ1000人以上から約8億円の出資を受けています。この講演で原さんは「意思のあるお金の使い方」ということをおっしゃっていました。最近この言葉を良く聞きます。

てんたの会の総会の後の映画「シエーナの思い」でも資金を融資した銀行の担当者が同じことを言っていました。お金には力があり、お金を力と一緒に銀行に預けてしまつてはもったいないということだと思えます。ただ、そういう社会のためになる投資先が少ないのが現実ですが、その中でおひさま進歩エネルギーは地域と密接なつながりを持ち、エネルギーを自分たちの手に取り戻す、エネルギーの地産地消を標榜に掲げて市民のお金で地域の活性化を図っておりとても素晴らしい事業だと思いました。



講演の様子はyoutubeにアップしてあるので興味のある方はご覧下さい。「日高くるくるねっと おひさま進歩エネルギー株式会社 原さん講演会」<http://youtu.be/uNVuEi>